

繪本通俗三國志

二編
五

21
221
15

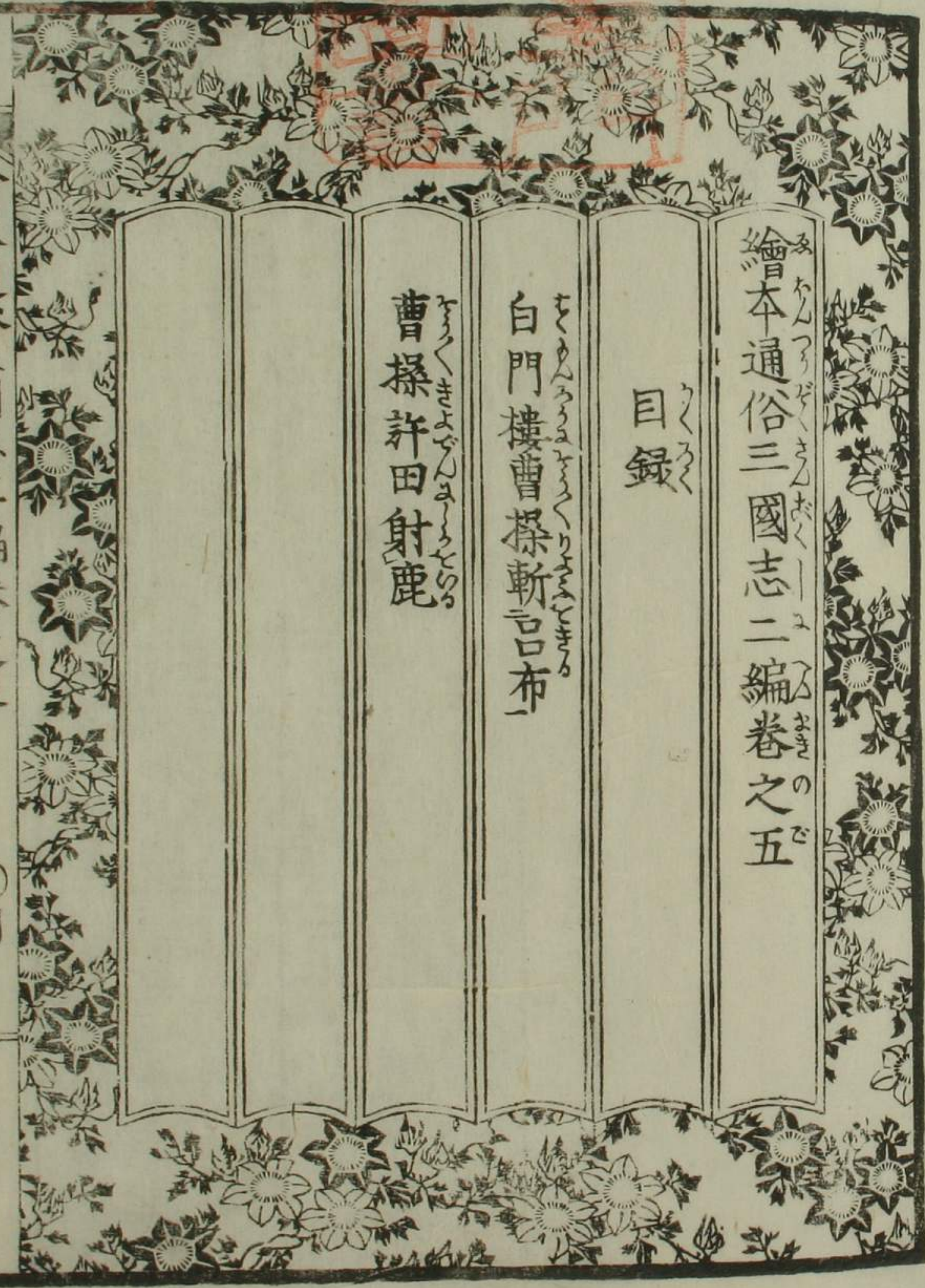


於
221
15

東京
學
校



繪本通俗三國志二編卷之五



繪本通俗三國志二編卷之五

目錄

白門樓曹操斬呂布

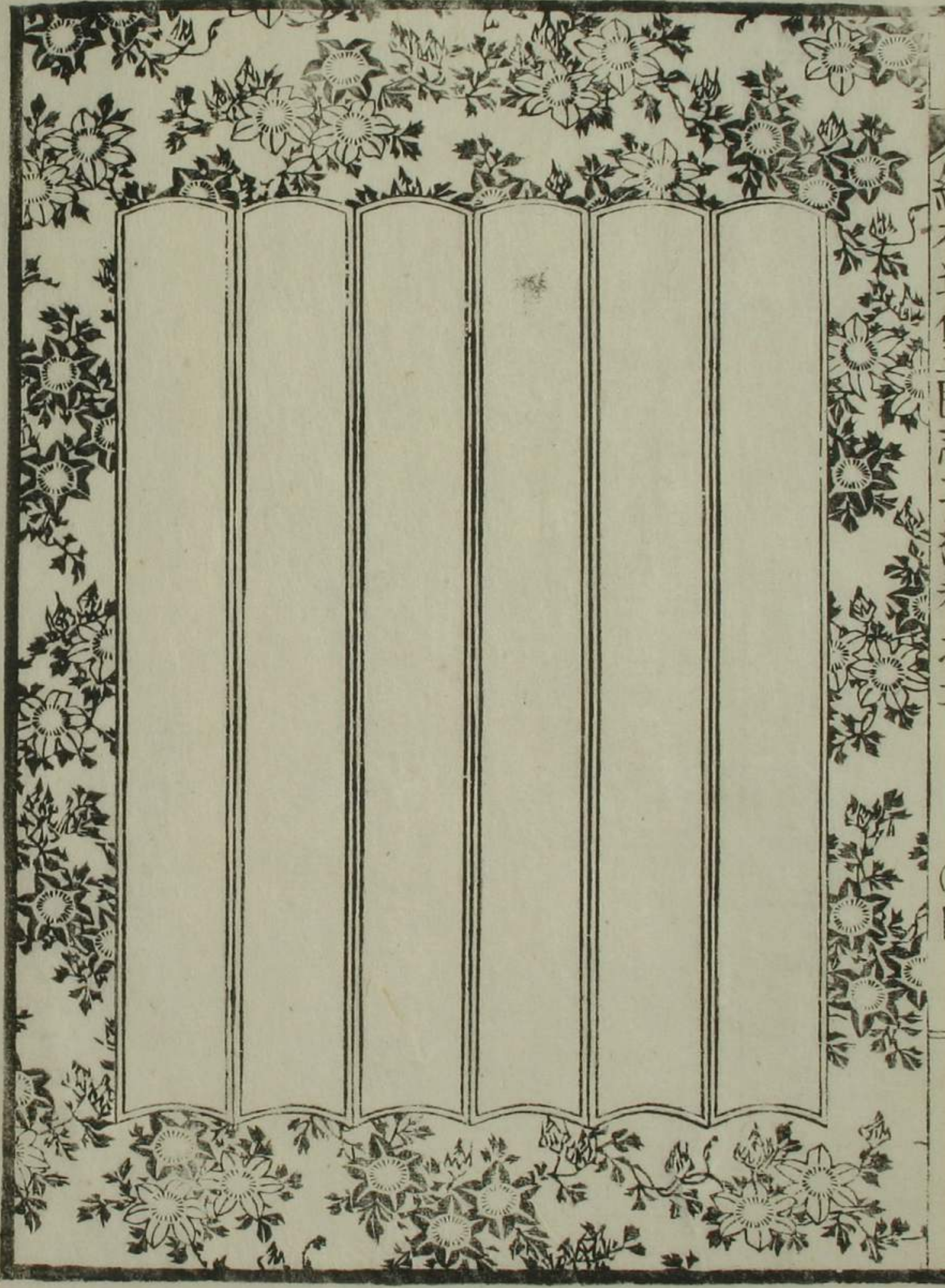
曹操許田射鹿

目

繪本通俗三國志二編卷之五

白門樓曹操斬呂布

呂布の諸處の軍を討殘さきたる兵を引て下邳の城を擁出
 ちり。泗水の流を逆を舟を引て兵糧武具を用意仕られを
 陳宮やうらゐる。いま曹操勢をとそく来る陣屋の要害を十
 かする。さうする乗る。逆寄を仕ぬ。さき逆をやる。旁を撃つ。お
 ち。かき。だ。大。利。と。得。ぬ。ん。呂。布。申。す。る。と。近。お。後。賊。軍。の。将
 たる。ま。い。わ。ら。う。く。し。く。出。で。ん。敵。の。来。攻。を。ま。つ。て。我。一。度。又。突。て
 出。バ。奴。原。ま。あ。ら。ぐ。く。乱。ま。る。能。う。ら。泗。水。は。瀕。ら。だ。ま。を。妙。計
 かり。事。を。さ。ぎ。掌。う。ら。わ。と。云。け。と。が。陳。宮。わ。ご。笑。と。退。出。ま。と。
 かくて五六日とさだかると。曹操大軍と馳る。城の四方に向陣

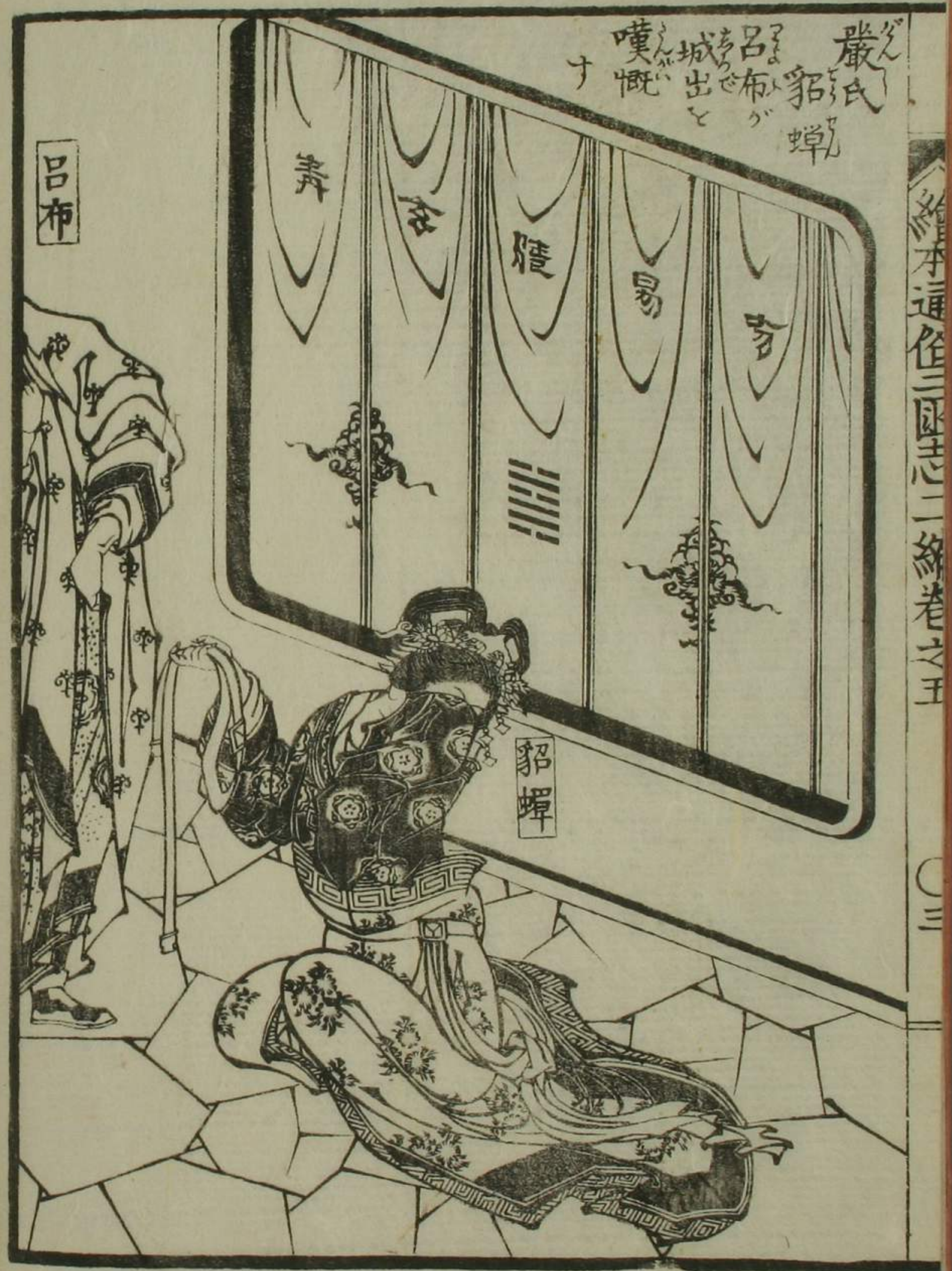


繪本通俗三國志二編卷之五

事。ちとら。將軍用ひぬ。呂布が御辺の良計。をききし。
 月ひびく。陳宮。曹操をく來。勢をひく。久に
 とな。將軍精兵を率。城外の陣を取。某
 小城を。曹操き。將軍を攻。其兵を
 後。曹操又。將軍又。後を討。
 の。十日。曹操兵糧。事。都を
 は。將軍の勢。呂布。
 中。良計。兵を。自
 武具。用意。寒氣。側。
 綿衣。著。女房。嚴氏。呂布。衣服。問。君。
 何。呂布。白。陳宮。將軍の計。

城をい。陣を取。嚴氏。昔。曹操。陳宮を
 ち。子の。彼。君。
 君。陳宮。曹操。此。城。彼。
 妻。妻子。一人。城。出。一旦。
 妻。君。呂布。夫人。計
 ら。兎。三日。
 出。曹操。大。軍。勢。張。
 四。呂布。思。堅。守
 兵。陳宮。曹操。都。
 兵。運。送。將軍。兵。引。路。塞。

新編後三國志二卷之五



ありき曹操が為す。大なる毒なり。呂布が曰すの計事極てよし。
 又まうあふれ行んとて内は入り又嚴氏より今曹操兵糧
 を運ぶるを進行しあまを討人。あつらふを寛く。あつらふを
 待め嚴氏よりあまをきひし。済むいせんとあつらふ君より城を出む。
 陳宮と高順とさだちて城を守らん我えより二人の間不和し。
 て常しあつらふ色あるとあつらふ君よりあつらふ出ぬ。二人事を起さ
 すと明白なり。あつらふの城萬一あつらふあらば君いばくまら身を
 のべぬ。ねがふがよき察しあつらふ妻昔し長安より君よりあつら
 れ。さひいし麗舒が情より身をかき。再び君よりあつらとあ
 たりいま又妻をかへりまむぬと。あつらふをまむぬてははれれば呂
 布情よりひられて。あつらふの内へいし。あつらふ。貂蟬をまむぬ。此事を語

貂蟬やあつらふの君よりあつらふ御身せらるん。あつらふの外はあつらふ
 行時よりあつらふの妻を頼まんと嘆なれば呂布よりあつらふ
 你意あるとあつらふ我よりあつらふの戟と赤兎の馬とあつらふの内へ。天下の人
 推しあつらふとあつらふを得と。陳宮をやりと。都より兵糧を運ぶと
 沙波よりあつらふ。あつらふの曹操の計多れあつらふあつらふ。我を
 引いあつらふならあつらふ右よりあつらふあつらふ。我あつらふあつらふ。あつらふいひけ
 れ。陳宮よりあつらふいし。長嘆し。あつらふあつらふ死し。身を焚きあつらふ
 るべしとあつらふあつらふ呂布の日夜あつらふあつらふ。あつらふ嚴氏貂蟬を守
 り酒を飲居たりあつらふあつらふ陳宮の手よりあつらふあつらふ。あつらふ計記王楷よりあ
 つらふ。あつらふ二人あつらふあつらふあつらふあつらふ。あつらふ呂布對面し。あつらふあつらふ敵
 を退くるの計案もあつらふあつらふあつらふあつらふ。あつらふ計記やあつらふあつらふ。あつらふ表術淮南あつらふあつらふ。

西復つひるらざるものあり。そ中く女を送りきて。我がそのち。園
中の兵をよほす。さらふべし。許記王楷さひの女を送りて。再び東
らん。うまむ。教の兵をいづ。あへて約し。郝萌とて。下邳へ向ら
んことを議する。日の内。敵の用ら。あつと。通り。このから。夜。よを
る。敵のさ。た。ま。ま。ま。ん。郝萌のあ。と。る。敵を。防。だ。む。と。て。ひ。そ
く。敵の。中。う。ま。を。伺。ひ。夜。中。の。あ。は。れ。馬。を。ば。び。て。馳。通。り。し。れ。が。
張飛。ち。の。ま。の。ど。秋。深。く。大。勢。馬。を。早。む。む。む。と。い。て。一。軍。と
り。て。萬。出。路。を。さ。え。死。り。と。さん。ぐ。と。戦。ひ。た。一。合。し。郝萌。と
生。捉。け。り。許。記。王。楷。の。あ。の。あ。ひ。と。突。と。城。下。に。い。り。な。れ。が。
内。より。門。を。ひ。ら。い。て。扶。け。入。り。張。飛。と。ら。郝。萌。を。縛。り。て。
牽。陣。を。回。り。な。れ。ば。玄。德。拷。問。し。て。い。と。ぞ。曹。操。を。見。入。呂。布。が。衰

術。又。救。を。と。と。し。ひ。よ。を。生。口。の。曹。操。さ。れ。が。と。程。日。が。云。く。と。違
む。と。と。郝。萌。の。首。を。刎。た。を。注。を。い。て。と。や。ら。る。と。呂。布。を。取
り。て。この。あ。る。手。下。の。あ。の。を。二。人。に。て。通。ら。る。もの。あ。ら。ば。必。ず
軍。法。の。處。を。べ。し。と。て。晝。夜。眠。る。もの。と。る。陣。を。か。て。守。
む。玄。德。諸。大。將。を。あ。め。り。て。我。い。ま。す。の。路。を。守。り。と。殊。に。淮。南
の。正。路。を。れ。ば。呂。布。を。う。ま。む。を。通。ら。す。萬。一。過。失。あ。る。と。然
る。王。法。は。無。親。と。ま。く。と。慎。め。我。を。い。ま。す。の。日。夜。甲。を。卸。ま
し。と。い。ひ。の。張。飛。や。ら。我。を。と。と。大。將。郝。萌。を。生。取。た。ま。を。と。
あ。ん。の。因。心。賞。を。預。ら。ら。ば。曹。操。が。下。知。の。御。事。は。あ。ら。ば。玄。德
の。曰。く。い。う。と。さ。ら。る。の。あ。ら。ん。曹。操。が。十。萬。の。大。軍。を。と。と。と。と。法
令。を。正。さ。さ。ん。が。何。と。と。と。人。を。服。せ。ん。你。ら。を。忘。る。と。と

ありれとて手配を定めて用心仕ゆのさるもとて并記王楷の城
 中へ回りて呂布の見え衰術疑ひをばらしてさうに并記を
 まだ息女を送りきたらば其後いささかんと約せしむ遣
 ぬといひつれを呂布やういままの困り中といひて女を送らん
 并記を將軍の門から出ぬとせんばあつく叶はじ今日を凶
 神の辰にあつれり城を歩るゝ不吉なり明日吉日とて戊申
 の時刻を待て出ぬ呂布あれは從ひ張遼侯成をせし
 なる明教する女を淮南へ遣せしと二人三千余騎を率車
 を用意しと從ひきたるを我らから敵の陣を突く二百里
 送り送り出せし人を付て淮南へ行しむべたぞとてさうに
 刺しありぬれば女を綿よほとて呂布みかめら昔を負其

上へ甲を着て赤兎馬に乗手も戦を執り二更の月少し
 明らかちりられが城門とひらいてみかめら真先よとて張遼侯
 成を後備として玄徳の陣を蒐通るゝ鼓の急地を動
 て関羽の軍路をさへ死の呂布十合あすり戦ひ横す突
 へ通らんともとて又張飛が一軍ひきたる呂布の戦ひをさ
 した隙を伺て走らんとするも又玄徳の勢四方より起り入
 り乱れてさんぐと戦ふ呂布勇るるといふは昔の女を負たれを
 ありすく働死ぬは萬一傷をかみわらんとて思きと陣を破りぬ
 ざらぬと後より徐晃并楮を先とて曹操が大勢殺到
 し矢を放りて雨よりまげく呂布を逐せしとてさうにさう
 りたればほひ一人も通るとあつたむはく下邳城より



呂布女

玄徳兵

陣中を忍ぶ

呂布

呂布娘

呂布女

玄徳兵

上下氣をあととて勇める儀勢をば「呂布の内の内悶苦とて。日夜酒を飲ぶと居たりる曹操の城を圍んで六十日あまれども城の内さら弱りたる色るればんの内安らざるを早馬本河内の張揚をとり呂布と好まるとその城の後及びをせんと企てし手下の大將楊醜といふをの替へて張揚を殺せり。睡固といふものあを怒りて又楊醜を誅し兵を引て天山へ落行くと告ぐれば曹操を誅死其睡固を生と置はば大將史渙を遣り追討す討たばに「手下の大將を召す。我の城を圍む二百日あまれば城さら弱らば北は西涼の憂あり東は劉表張繡を禍あり。今片附を擧ぐば今張揚車をあはし心腹の憂をよきとせ」幸ひよと自滅せり。

あの城急とて若洛へ移るあらねば打まき都へ回んといふと問ふ荀攸諫めをさるる。あやうらぬ某も思ふ呂布勇あも計策はいまは敗れと氣を落し力を失ふ。夫三軍の大將をとり主とて大將を氣をあととて死に將軍のいさる震らん陳宮の計あれどもあやうらぬ今呂布が氣力のこといさ陳宮の計の決せざるを乘りて急心よびるわとあやが二軍は城を破るべし郭嘉をいさて曰く「某一の計あり御方の利二十万の勢は比まへり呂布勇ありとていさる近れん荀彧かこらるる笑とやうる洧水と泗水を塞かるとてあやうら郭嘉が曰まるとあやうら曹操がさるる海まび人夫二万をえらんぞ洧水泗水のあはれを引大軍とてあや高處へ移さ

魏志二卷之五

志む城中のものをども。ほら夜俄く物さらがしうられ。まのいふま
 をどなくあふま洪水濠に溢れて。あびくく城中へかかると
 赤のほを止らるる。呂布がうらむを赤兎の名馬あり水を渡ると
 平地のざは。何のあそれららんとて。た明昏酒を飲と居り
 し。があらと鏡をひらたると驚たると曰るを酒色をまは。や
 身体入ふと泣く。今より後にかて戒むべ。城中の者
 ども。まのいふま酒を飲まのあら。かかれば首を刎と戒と
 しく禁酒の法を守まると網をまらる。まより大將侯成馬
 十五匹あり馬飼と。ひとら寄合と。く盗い。と女徳を献
 はり降参せんとして。引と。まを侯成と。付追蒐と斬あら。
 馬を取返られ。れを猪大將と。相賀と。あはま。酒六斛猪

十四五匹を用音して祝をまさんと。うら。侯成と。うら酒五瓶
 と猪一匹とを呂布が前を推りへ行。將軍の虎威よりと馬盗
 人を追はひと取返して。ひを猪大將と。賀と。まのいふま
 まのいふま酒を用音して猪を獵と。笑をま。ま。將軍は進
 めとす。志を表と。ひ。呂布勃然と。怒と。ま。禁
 酒の法をい。か。戒む。あ。你酒を用音して猪人
 をあはむ。と。ま。志をひと。我をま。ま。為り。と。引
 しく斬と。んと。高順。あ。嘆と。一命をと。れ。呂布
 牙をかん。や。法を犯せる。罪斬で。叶。と。いふ
 你。が。嘆。免。と。百林打ん。猪大將。を。か。人。と。清。れ
 び。五十林打。免。と。れ。も。侯成。が。背。の。血。じり。と。花。紅。葉。の

おとく^{○りよふ}呂布の怒^{いかり}の気^きを^を巴^やと酒^{さけ}を^を猪^{いのま}も^もあ^とぐ^ぐ奔^せせし^ら
 ば猪^{いのま}大^{だい}將^{しやう}と^と安^{やす}ら^らだ^だあ^あひ^ひり^り宋^{そう}憲^{けん}と^と魏^ぎ統^{とウ}と^と二^に人^{にん}打^{うち}連^{れん}侯^{こう}
 成^{せい}を^を陣^{ぢん}と^と行^{ゆき}と^と事^{こと}の^の中^{ちゆう}を^を問^とは^は侯^{こう}成^{せい}涙^{なみだ}を^を流^{なが}し^しと^とさ^さら^らの^の今^{いま}日^{にち}を^を御^ご
 辺^{へん}連^{れん}の^のま^まを^をひ^ひよ^よあ^あら^らむ^む人^{にん}が^が我^{われ}も^も殺^{ころ}さ^され^れ七^{しち}宋^{そう}憲^{けん}や^やら^らの^の呂^{りよ}布^ふ
 猥^{とん}り^り女^{にょ}房^{ぼう}を^を重^{おも}ん^んと^と大^{だい}將^{しやう}を^を芥^か芥^から^らお^おと^とく^くよ^よか^から^らん^んを^を魏^ぎ統^{とウ}
 中^{ちゆう}の^の曹^{そう}操^{そう}が^が大^{だい}軍^{ぐん}四^し面^{めん}を^を圍^{かこ}み^みて^て洪^{かう}水^{すい}壻^きを^をひ^ひく^くた^たを^を示^し射^{しやう}死^し
 せ^せと^と死^しや^やら^らる^る宋^{そう}憲^{けん}は^は曰^いは^はく^くの^の死^しを^を大^{だい}死^しと^とし^し東^{とう}の^の関^{かん}門^{もん}を^を
 閉^しぢ^ぢり^りひ^ひの^の水^{すい}を^をも^もた^たれ^れば^ば倡^{あや}や^や呂^{りよ}布^ふを^をま^まと^とて^て何^い方^{はう}へ^へを^を落^{おち}行^{ゆき}ん^ん
 魏^ぎ統^{とウ}奮^{ふん}然^{ぜん}と^とて^てさ^さら^らの^の人^{にん}を^を落^{おち}行^{ゆき}車^{くるま}あ^あら^らん^ん呂^{りよ}布^ふを^を生^{せい}捕^とと^と曹^{そう}操^{そう}
 と^と降^{くだ}らん^ん侯^{こう}成^{せい}や^やら^らの^の此^{こゝ}儀^ぎを^をも^もた^たら^らべ^べし^しと^とも^も馬^ばを^を入^いり^りか^かる^る責^{せき}
 と^と受^うけ^けり^り呂^{りよ}布^ふの^の頼^{たの}み^みと^とさ^さら^らの^の赤^{せき}兎^と馬^ばを^をれ^れが^がと^とま^まり^りさ^さる^る馬^ばを^を盗^{ぬす}ん^ん

ぞ曹^{そう}操^{そう}は^はな^なて^ての^の計^{けい}を^を定^{さだ}ま^まり^り及^{およ}ぶ^ぶ御^ご辺^{へん}二^に人^{にん}の^の後^{あと}よ^よの^のあ^あ
 り^りと^と呂^{りよ}布^ふを^を生^{せい}捕^とむ^むへ^へと^と深^{ふか}く^く麻^あを^を伺^かひ^ひ番^{ばん}の^のま^まを^を尽^{つく}す^す
 宥^なめ^められ^れが^がや^やと^と赤^{せき}兎^と馬^ばを^を引^ひき^きて^て打^{うち}乗^{のり}東^{とう}の^の門^{もん}より^{より}走^{はし}り^り出^いる^るよ^よ
 魏^ぎ統^{とウ}と^と宋^{そう}憲^{けん}と^と送^{おく}り^りい^いづ^づと^と馬^ば盗^{ぬす}人^{にん}と^と呼^よべ^べり^り詐^{いつはり}と^と追^お追^お蒐^くる^る体^{てい}
 を^をも^もた^た候^{こう}成^{せい}の^の曹^{そう}操^{そう}は^は見^みへ^へと^と赤^{せき}兎^と馬^ばを^を獻^{けん}じ^じり^り右^{みぎ}の^のあ^あむ^むむ^むを^を
 結^{むす}り^りと^と宋^{そう}憲^{けん}魏^ぎ統^{とウ}ホ^ほ内^{うち}意^いの^の事^{こと}を^を結^{むす}り^り城^{しろ}の上^{うへ}に^に白^{しろ}旗^{はた}を^を立^た
 る^るを^を合^あい^いづ^づ呂^{りよ}布^ふを^を生^{せい}取^とり^り門^{もん}を^をひ^ひら^らい^いん^ん其^{その}時^{とき}を^を違^{ちが}は^はさ^さす^す心^{こゝろ}を^を
 及^{およ}ぶ^ぶと^と云^いは^はれ^れが^が曹^{そう}操^{そう}か^から^らり^りと^とま^まり^りい^いは^はま^まび^び檄^{げき}文^{ぶん}を^を書^かき^きて^て城^{しろ}中^{ちゆう}
 へ^へ射^いれ^れら^らる^るの^の文^{ぶん}に^に曰^いは^はく^く

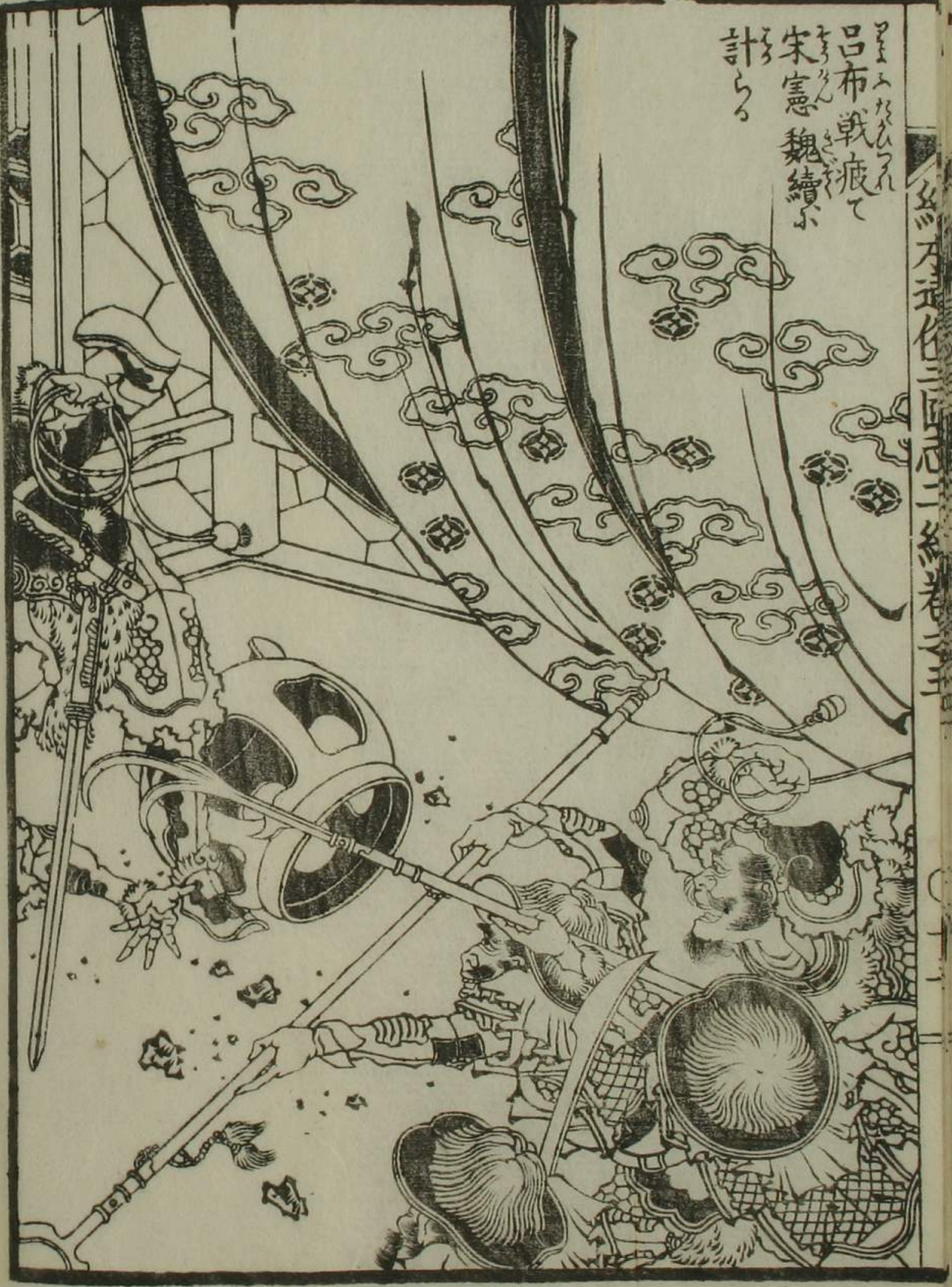
今奉

明^{めい}詔^{せう}征^{せい}伐^{はく}呂^{りよ}布^ふ如^{ごと}く^く拒^かげ^げ大^{だい}軍^{ぐん}者^{しや}滿^{まん}門^{もん}誅^{しゆ}滅^{めつ}

如城内上至將校下至庶民如獻呂布之首者重加官賞大將軍曹押字

はげの日曙は城外の寄手取十萬一度は金を鳴し鼓を打て
賊のたふ天を動し地を震し四方より及のむりられが呂布大
驚馬をみり走りまかりと及口をわて守らせ戦をまかりと
射入敵とさへ戦ふとき合圖を違ひ城の上より旗を
をさしあげられが曹操さといや約束の旗を出したるぞいよく
急なひよとと喚れ叫んさきとひさむ赤矢の雨のてて進む
鉄砲の雷のどととささ日中まごあまう列が及されが兩
方の射死上ぐ上は重なりと俄く山を築あげり寄手の
勢をさへ引退れさ呂布戦ふひ疲れて椅子の上はね

ひり居たるよかねその約束られが宋憲走り来り左右の人を追
退てまが呂布が戦を奪ふ魏統らるなりとて押へ呂布
を縛りなれば呂布あつくと驚れ寄りやものどもとまはるる宋
憲が手下の勢あびて馳あつて呂布とらうとも働ささ魏
統矢倉の上より白旗を執りまねけが曹操大軍一度はま
た魏統大音あげとささ呂布を生取たりまらぐく入
と叫ぶと夏侯淵をけり計策をあらんと疑ふと
うろくしてはさまる宋憲矢倉の上より呂布が戦を投出し
城門をのらたをが大軍を乱れ入城内の丘あつてさかひだ
大軍降人よめられが高順と張遼と西の城戸洪水深くしと出
べれ申らるるまらぐく生捉れり陳宮の南の門をきて戦ひる



三國志卷之三

呂布を指がてりたる。たゞその人の計策を用ひざる。計
 を用ひが。今日ちんぞかくらぶとくまらん。曹操笑て申る。今御邊
 の身。いかに思ふぞ。陳宮申る。臣とて忠ある子。して孝
 あり。惟速やう。死せんことを思。曹操曰。御邊老母あり。あれを
 いかに陳宮曰。をきく孝をまつ。天下を治む。その人の
 親をたはさば。老母の存亡將軍の心あり。曹操曰。御邊妻
 子あり。あれをいかに陳宮曰。をきく仁政を。天下を治む。その
 人の祭祀を絶む。妻子の存亡將軍の心あり。
 曹操曰。志の心あり。殺さる。志の心あり。氣色あり。これ陳
 宮曰。然るに我をいかに。殊を蒙む。軍法とある。うま
 べと。みづから起り。樓を下まが。引さむ。れと。住まらん。曹

操志あり。涙を流して。送て。ゆる。陳宮曰。老母妻子と。あ
 と。都におきて。我府中にて。ねん。養へ。思ふ。その心
 ら。斬んと。下知を。陳宮の。心あり。後と。う。介。黙
 然と。頭と。つ。心。斬。これ。諸人。涙を。流。る。は
 曹操。その。志を。あ。棺。槨。を。具。へ。都。送。り。妻子。子。と。子
 へ。あ。の。墓。に。む。の。あ。ひ。は。呂布。あ。ま。ん。玄。徳。は。告。ぐ
 中。の。公。の。座。上。の。客。を。も。階。下。の。虜。あり。ね。が。く。二。言。を
 ち。つ。その。苦。し。を。寛。仕。あ。玄。徳。打。詰。ば。ひ。と。居。あ。る。曹
 操。その。意。を。ま。つ。と。呂布。を。前。に。引。出。さ。し。む。呂布。や。る。丞相
 の。患。と。い。ふ。其。ま。ま。だ。今。さ。る。服。し。る。上。の。天。下。の。掌。中。の
 あ。らん。丞相。歩。將。と。い。ふ。其。を。騎。將。と。い。ふ。四。方。を。定。む。と。あ

道はたらんや。曹操笑て玄徳より。呂布をいふせんを
 おのひるふぞ。玄徳答て曰。彼は建陽と董卓と仕へ
 志を見むばや。呂布あをを聞て。大におはれ。玄徳を八と睨ん
 ぶ。人のあふとて。信あはれ。そのふ。曹操武士の命とて。引出
 して。頸を縊すと下知され。呂布引立ち。後をうへり
 とも。大耳の賊。轅門は戟を射し。恩をまをれ。うると
 呼り。とれ。大音あげ。呂布匹夫。あふと。命を惜む。と
 といふ。来り。そのあり。曹操あをを。武士と。張遼を
 引。階下。居られ。ぎ。下知を傳。呂布を門外。縊
 させ。首を斬。路頭。さ。そのち。張遼を。此人
 へ。元来。男は。あ。惜れ。ものを斬。あ。ひ。張遼

けり。る。を。兩度。まで。濮陽。と。對面。せ。が。你。を。と。こ。心。
 る。ぞ。曹操。笑。て。你。を。と。あり。た。う。と。張遼。齒。と。切。あ
 かり。て。可。惜。く。と。よ。ば。り。れ。が。曹操。何。事。ぞ。や。張遼。や。り。你。を
 濮陽。の。城。を。焼。んと。せ。と。惜。ら。く。火。の。大。を。う。ぶ。る。と。と。火。を
 一。大。あ。ら。け。你。が。お。と。れ。國。賊。を。焼。あ。は。さん。曹操。の。心。の。外。の。怒。
 り。敗。將。を。ん。ぞ。我。を。辱。し。む。と。い。ふ。て。の。ち。劍。を。抜。て。斬。へ。と。こ
 ろ。を。玄。徳。と。関。羽。と。き。う。な。は。と。め。て。や。る。ら。張遼。の。心。に
 死。士。あり。ね。が。か。を。宥。め。入。曹操。劍。を。地。に。お。す。て。申。り。う。る。と。こ。こ
 ま。す。と。張遼。が。忠。義。を。志。る。是。故。に。戲。々。あり。と。と。の。ち。繩
 を。と。た。衣。被。と。あ。へ。ん。れ。張遼。を。ま。ら。降。参。を。曹操。が。た。り。る
 よ。る。と。あ。た。と。ひ。と。が。妻。子。を。殺。し。たり。と。何。ぞ。旧。仇。ま。ん。よ

ちりんとて。中郎將関内侯を封じ、臧覇を兖州にありて。此消
息をききて我いま唯う依んた。張遼と二處にあつんとて。手勢
數百人を引きて馳来りし。曹操重く用たり。臧覇も泰山
を引あもりし者ども。乃ち方へ使を遣し利害を説き。孫
觀、吳、張、尹、禮、の来り降りし。昌、稀、一人の從ひ。曹
操をみちり。臧覇を瑯琊の相に封じ。孫觀、ホコ、官を
授けし。青州、徐州を守らし。呂布が妻子あかび。貂蟬
ホを。三都へ送りのおせ。貯へる金銀を士卒にまらち。
卒の師を収めし。許昌の都を攻めり。

曹操許田射鹿

曹操徐州を平定して。下邳城を打立都をばさる。登る。

人民しとぐく香を焚き路乃衢に出む。劉玄德をみちり。
の太守とて。とちの人の願はれ。曹操も劉使君の莫
大の功勞あるより。都へ上りて天子を見ゆ。後まき。東
りのみぞとて打出ま。百姓頓首して喜びたり。曹操馬を
あらし。玄德も。御邊ま。都へ上り。天子を見。後
再びきたりて。徐州を治め。その間の車騎將軍車曹を留
めて。乃ち徐州を守らし。んとて。日を経。都は著れ。諸
軍勢は恩賞を何え。重く。丞相府のひで。玄德
の旅館。ま。日相伴る。朝廷は出。玄德朝服
を。地下は。舞せられ。帝勅。殿上。曹
操の功勞ある。を奏し。帝。玄德の先祖。ある者ぞ

と勅問ある。玄徳あおへは。涙をみる。されは。帝。怪志んごとの
 人を問せぬ。玄徳。謹志んご奏す。いま勅を承ふ。つと。あふへ
 感傷の意を生む。臣が先祖中山靖王の後胤。景帝の玄孫。劉
 雄。孫劉弘が子あり。先祖劉貞。涿鹿縣陸城亭侯。封せら
 ば。家縁流落し。臣のたり。先祖を辱しむ。あへの
 涙をあげ。してひと。やま。なれば。帝。打驚。うせむ。初。漢室の一
 族あり。家の世譜を取きたま。と。宗正卿。命。前。よ。て
 んで。続せらる。と。曰く。

漢景帝生十四子。第七子乃中山靖王劉勝。勝生陸
 城亭侯劉貞。貞生沛侯劉昂。昂生漳侯劉祿。祿生
 沂水侯劉繆。繆生欽陽侯劉英。英生安國侯劉

建。建生廣陵侯劉哀。哀生膠水侯劉憲。憲生祖邑
 侯劉舒。舒生邾陽侯劉祖。祖生原澤侯劉必。必
 生潁川侯劉達。達生豐壘侯劉不疑。不疑生清川
 侯劉惠。惠生東郡范令劉雄。雄生劉弘。弘不在
 劉備。乃劉弘子也。

帝。き。是。ま。皇。叔。あり。と。宣。す。御。涙。を。か。け。と。
 偏殿。は。精。卜。叔。姪。の。礼。を。は。と。酒。宴。を。な。す。御。心。の。内。今
 曹操。威。を。あ。げ。ら。は。と。天。下。を。奪。ん。と。計。策。あり。朕。浩
 英雄。の。叔。父。を。得。た。る。天。の。助。け。ら。る。と。あ。お。し。と。曹。操。志。る
 づ。官。を。定。め。よ。と。宣。す。ひ。な。を。曹。操。承。あ。り。と。左。將。軍。宜。城
 亭侯。封。は。玄。徳。因。志。を。謝。して。さ。ら。は。朝。を。退。出。せ。ら。れ。と。を

これらして劉皇叔とを呼ぶ。曹操はもと相府より入りたれば、
或は初として文武の大将ひとく来りし。今日天子は
徳を尊ぶ。叔父とてあつた。丞相の言を多し。曹操は
や。その文徳を相親むと兄弟のよき。何ぞや害を成とあ
ん。劉曄より其ましく玄徳をよむ。世の英雄より。久く
人ののこる。居るのまあらば。はは御用心あててハ叶ふまで。曹
操打笑ひ好む亦交りて三十年。悪たも亦交りて三
十年。好む悪むまは主張ありと。あきまう玄徳といふ
いふおまをいふ。坐さる。とた席と
えきた。或は日。程良きたりて天下の事を論じ。いま呂布滅て
四海震動に霸王の道を行ふべし。と去され。曹操

らる。いま行ふべし。朝廷を股肱の旧臣。後からくくせを
害と生せん。天子と并田の獵を請じ。諸人の気色と
かひ見べし。と大鷹と用意し。兵と城外に調へ。のう
宮中に入。并田の御獵を催さべし。と奏し。帝宣ひ。古
の田獵は聖人の正。道あわむ。故え。曹操は古
の帝王。春の蒐。夏の苗。秋の獮。冬の狩。四時郊に出。と
武をエハト。示し。あり。況やいま四海大に乱れ。互ひに戦ひあ
ふ。そのととあは。出。獵と仕あふ。その利四あり。陛下
つひは深宮の内。御座あり。神力。疲病を。いま弓馬のあいこ。
馳騁し。あふ。神氣と爽。身さる。あり。武と
耀し。威と揚。四方を。二あり。軍兵の間。困る。困る。

新編通鑑三國志二編卷之五 〇二十一

と病を主と奔走して逆するところなり。二あり。天子あまび公卿
まを射しを習わざといふは。四あり。臣まを用意せり。す
とやうに御出あひべ」と奏しやせば帝やとて得じて雕弓金鈇箭
と携さへまを道遥馬を召れ玄徳と伴ひ行べ」と紹祠あ
りなまを玄徳とまを関羽張飛と弓矢とをささ。武具とを
と數十騎まを相従る見物の貴賤羣集してあまを劉皇
叔よ兵の出立かまも疾るありとてやう。曹操ハ汎黄飛電と
いへる名馬のたぐはく遅すれまを乗。十萬余騎の精兵と従がえ
二百里と打圍せ。うねての思案あまを。かか天子の心後よ沿手
下の大將と華やうまを出立せ武具と執。前後左右は簇陽せ
しむ。あまをよりと朝廷の百官ハ帝の御前まちりばくしあ。

の。まをの。後まを引さぐる。天子ハ雕弓金鈇箭を御手
ま携へその余ハ箭まを。く名字と録。まを。并田まを。り
玄徳と御前まを。され朕ハ今日の獵ハ皇叔と射。まを。と宣
たま。まを。草の内まを。兎と追出せ。帝あれ射取と宣。まを。玄徳
馬と弛。まを。丁と射。まを。矢正中。まを。あり。と。兎は。まを。僵れ。まを。
帝ハ。まを。多。敵感あり。と。御馬。山の坡。まを。り。まを。まを。まを。射。まを。皆
の中。まを。鹿。まを。と。奔。り。出。れ。バ。帝。手。づ。ら。り。三。度。まを。射。まを。皆
あ。まを。傍。ら。る。曹。操。ハ。御。まを。と。射。まを。まを。宣。まを。曹。操。天。子。乃
雕。弓。金。鈇。箭。と。取。まを。と。射。まを。鹿。の。背。まを。矢。あ。り。まを。小。笠。の。上
ま。射。まを。諸。の。百。官。下。將。校。まを。い。る。まを。金。鈇。箭。と。人。と。帝。の
射。まを。射。まを。入。る。と。あ。まを。い。る。まを。走。り。あ。は。ま。り。と。同。音。まを。方。歳

